

番号	質問	回答
1	病床数を1,000床から860床への見直しは、医療需要によるものなのか、建築費高騰による予算の関係なのか。	開院時の病床数の見直しについては、入院受療率が近年低下傾向にあるという医療需要の変化のほか、国の医療政策における急性期医療に関する要件や位置づけの見直しなどの情勢変化を踏まえたものです。なお、基本計画の見直しに当たっては、建築費高騰への対応も考慮しています。
2	計画の見直しによって、機能に関する当初計画とのズレは生じないのか。	見直し後も、当初計画で掲げた新病院の理念や果たすべき役割を損なわないことを前提に、全国トップクラスの規模の重症系病床や手術室を備えるほか、感染症病床の設置や県立がんセンターとしての役割を充実させる観点から緩和ケア病棟を設置し人材育成を行うなど、医療機能の一層の強化も図った内容としております。
3	県外からを含め、若い医師をどのようにして集めるのか。	若手医師は知識や技術を高められトレーニングが積める環境を望んでおり、また、ワークライフバランスも重視する傾向も伺えます。このため、症例の集積や研修プログラム・指導体制の充実のほか、働きやすい環境や制度、多様な学習機会など魅力的な環境を整え、医師や医療従事者の確保・育成を進めてまいります。
4	新病院は希少難病の治験に積極的に参加してくれますか？	新病院においては、大学病院等と連携して、希少疾患等に対する新たな治療法の開発を目的とした臨床研究や治験に積極的に取り組むため、担当部門の設置や円滑な業務に必要なシステムの導入を検討してまいります。
5	最終的な事業費はいくらになりますか？	概算事業費は、1,330～1,460億円を見込んでいます。建築資材・人件費などの原価高騰、物価上昇等により事業費が変動する可能性があります。収支計画への影響を精査し、持続的な経営の可能性を確認しつつ、事業を推進してまいります。
6	高度医療を利用する際の個人負担の費用は？保険は適用されるのか？	高度な技術や機器を必要とする医療の多くは保険適用となっておりますが、公的医療保険の対象となっていない先進医療も新病院においては実施する予定としております。
7	一旦、医療業務から離れた人の復帰を促す政策がありますか	本県が設置する広島県ナースセンターにおいては、広島県看護協会と連携して、一度離職した看護師を対象として、医療技術の研修や再就職支援セミナーなどを実施しております。このような取組等を通じて、医療従事者の復職を促進し、本県の医療従事者の不足を解消してまいります。
8	高度医療は重症患者も治せますか？	新病院においては、重症患者の治療も含めて全国トップレベルの高水準かつ安全な医療を提供することにより、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる広島県の実現に貢献してまいります。

番号	質問	回答
9	優秀な医師をどのようにして集めるのか？	若手医師は知識や技術を高められトレーニングが積める環境を望んでおり、また、ワークライフバランスも重視する傾向も伺えます。このため、症例の集積や研修プログラム・指導体制の充実のほか、働きやすい環境や制度、多様な学習機会など魅力的な環境を整え、医師や医療従事者の確保・育成を進めてまいります。
10	医療従事者の方々が離職しない方法があれば教えてください。 コロナ禍から一気に医療従事者の方々への御負担が増えそして今も負担が増す一方だと思っておりますのでお聞きしたいです。看護師の方の離職率はかなり増えているのではないのでしょうか。	本県における看護職の離職率は全国平均よりは低い状況（本県：10.3% 全国：11.3%，2023年度）であり、コロナ禍前後の期間（2018年度から2023年度）においては10%前後で推移しております。（参照：日本看護協会「病院看護実態調査」）新病院は、職員がやりがいを持て、働きやすい病院を目指しており、充実した指導体制など魅力ある研修体制を整備するとともに、職員の福利厚生の実施に努めてまいります。
11	医師の働き方を担保しつつ、育成を担うには、それなりの人材確保が必須かと思われます。構想での具体案を教えてください。幸いです。	新病院においては、症例の集積や研修プログラム・指導体制の充実のほか、働きやすい環境や制度、多様な学習機会など魅力的な環境を整え、医師や医療従事者の確保・育成を進めてまいります。
12	大学との住み分けは、どのようにしていられるのでしょうか。	広島大学と県で、それぞれの医療資源等の強みを生かしながら連携を進め、広島県内における地域完結型の医療提供体制の構築に寄与すること及び医療水準の向上を図ることを目的として「高度医療・人材育成拠点の整備に関する協定」を令和7年7月7日に締結しました。 今後も引き続き、地域の医療機関との連携・役割分担による効率的な医療提供体制の構築を目指して、各関係者との協議を行ってまいります。

(その他ご意見、ご感想、聞いてみたいテーマについて抜粋)

- 救命が求められる救急医療やこどもの医療などにおいて新病院の役割が大切であることがよく理解できました。2030年に向けて十分な準備をお願いします。
- 収益性を上げて、医師の待遇改善をしないと人が集まらない。人を育てるためには時間を要するので魅力的な病院であり続ける必要性があります。
- 新病院に対する漠然とした不安がありましたが。今回のセミナーでかなり払拭されました。救急医療に関しても興味深い話が聞けて良かったです。
- 広島県における医療に対する現状、課題、取り組みが良くわかりました。現場の医師による説明によって、現実には救急現場が切実な状況にあることが理解でき、自分事として捉えることができました。本来の業務が多忙な中、資料作成し登壇くださりありがとうございました。とても有意義な機会となりました。
- ACPの講話が考えさせられた。舟入市民病院においては、院外の先生も携わっておられることを知りました。
- 大変貴重な講演ありがとうございました。とても重要な社会課題なので、広島県の小学校で、この講演動画を視聴しグループでディスカッションして、医療を取り巻く課題について県民が早期から認識、取り組むような社会作りが出来ないでしょうか。医療、介護は交通安全や消防の体制、原爆等と同様の種類のもので、幼い頃からの教育が必要ではないでしょうか。
- 現在医学生ですが、大学卒業後に広島で研修をしようと考えており、新病院で将来勤務してみたいという思いがありますので、情報を得たく本日参加しました。救急体制を中心にリアルな情報を知ることができてとても参考になりました。ありがとうございました。
- 亡くなった父が転倒して頭を打ってくも膜外血腫になる2日前にACPについて聞いた時、縁起が悪いから止めてくれと本人の意思が聞けませんでした。延命の処置は心だけではなくそれ以外にもたくさんあると、父が倒れた後に理解できました。存命中に聞いておきたかったです。今後に活かします。
- パネルディスカッションが短くて残念でした。